

# 日本における男女別の労働ウェッジ

郡司 大志\*

宮崎 憲治†

## 概要

日本の景気循環では生産水準に直接かかわる効率性ウェッジと、労働供給にかかわる労働ウェッジが主な要因であると考えられてきた。他方、日本では女性の労働供給が男性と比べて低く推移しているため、これも労働ウェッジに関連している可能性がある。そこで本稿では、Chari et al. (2007, *Econometrica*, Vol. 75, pp. 781-836) による景気循環会計モデルを男女別労働ウェッジをもつように拡張することで、それぞれの労働ウェッジの重要性について分析する。まず、ここで提示したプロトタイプ・モデルは、いくつかの男女別の具体的なモデルに対応していることを示す。次に、景気循環会計を日本経済に適用し、各ウェッジの効果を検証する。推定の結果、男女別労働ウェッジの差は縮まりつつあるが、女性のほうが水準が高い一方で、ボラティリティは男性のほうが大きいことが明らかとなった。また、女性の労働ウェッジは男性と比べて景気循環への影響が大きいことが分かった。さらに、女性の労働ウェッジを男性と同じにする仮想実験を行ったところ、消費や労働のボラティリティが大きくなるものの、定常状態の消費水準が上昇するため、結果としてネットの厚生水準は実際のデータよりも高まることが示された。

---

\* 大東文化大学経済学部

† 法政大学経済学部